

第 103 回グリーンサポート隊活動報告

1. 日時：2020. 1. 19(日)午前 9 時～11 時
2. 場所：トラスト 14 号地（県有地）D 地区
3. 参加者：25 名（他に役場 3 名、正木農園の方）
4. 活動内容

今日は毎年定例の堆肥づくりのための落ち葉掃き作業を実施しました。前日の土曜日には雨が降りましたので落ち葉が水を含んで重たくなり作業が大変ではと思っていましたが、当日は晴れの天気で作業には支障がありませんでした。また、多くの会員、ダイダンから 4 名の女性が体験入会で参加していただきました。大変ありがたいです。正木農園の皆さんが参加していただいたので短時間で予定の作業を終えることができました。今年は、通年暑かったせいでしょうか葉っぱが例年より大きいと感じました。トラスト地内の主要な樹木であるどんぐり系の樹木のどんぐりが今年は豊作です。但し、堆肥置き場でこの時期昨年以前の熟成した堆肥をひっくり返すとたくさんのカブトムシの幼虫が出てくるのですが今年は少ないように感じました。温暖化功罪あります。自然は正直ですね。堆肥置き場が老朽化して仕切り壁などが朽ちてきているので作り変える計画をしていますが、今回には間に合いませんでした。今のところ景観に配慮し、林内に入ってくる子供たちがけがをしないような堆肥置き場を予定しています。この時期は、草の芽も出ていませんし、雑木林の樹木はすっかり葉を落としてしまっているのです、鳥もあまり寄ってきません。こうした寂しい厳しい時期があるから春は待ち遠しく、華やかに思えるのでしょうか。

落ち葉を掃いて林内が一段とすっきりしてきれいになると隣接する淑徳大学側の林が荒れているのが気になりますが、未だ一昨年の台風で倒れた樹木がそのままなので立ち入ることができない状況が続いています。

落ち葉をビニールシートに乗せて堆肥置き場まで力を合わせて運びます。

堆肥置き場では、運ばれてきた落ち葉を踏み固めます。



最近異常気象が続いていますが、明らかに地球温暖化の影響です。温暖化防止には森林が大きな機能を果たしているといわれていますが、昨年来異常気象のせいもあり、大きな森林火災が発生しています。ブラジルの火災は430万ヘクタールの森林が消失、この面積は東京、埼玉、茨城、群馬、栃木の合計面積に匹敵します。つい最近ではオーストラリアで大火災が発生しました。その面積は日本の面積の4分の1にあたる1030万ヘクタールです。私たちの活動は小さな一灯ですが、些かでも地球温暖化防止に寄与できればと考えています。子供たちにこの緑を残していきましょう。来月は、例年通り活動は休止します。暖かい天気が続くようであれば刈込機で草刈を実施するかもしれません。3月は草も萌え、林内は少し緑を見ることができるようでしょう。

3月活動予定は3月15日（日）午前9時から正午ごろまで
トラスト第14号地 C・D地区予定